

平山郁夫シルクロード美術館 News

The Hirayama Ikuo

Silk Road Museum

News

No.26

2021年3月発行



平山郁夫《法然偏依善導》 1979年 171.0×364.0cm 知恩院蔵 再興第64回院展出品作

平山郁夫は、1979(昭和54)年、《法然偏依善導》を発表しました。画題にある《法然偏依善導》とは、浄土宗を開祖した僧侶・法然(1133-1212)が、中国・唐代の高僧である善導(613-681)の教えに偏^{ひとえ}に依^よるということです。法然が生きた平安時代後期から鎌倉時代初期、仏教では「末法の世」であり、誰もが救われたいと言われていました。そのような中で、法然は皆が救われる教えを求め、43歳の時、当時の仏教書である『往生要集』(源信著)の中から善導の教えに注目し、彼の著作の中から「専修念仏^{せんじゆ}」を見出しました。当時、この教えが人々に受け入れられるか否か、迷いの中にあった法然は、ある時、夢を見ます。その夢の中では、専修念仏を記した「善導」が現れ、下半身はまるで仏のように金色であったと言います。そして、法然の見出した教えを弘めることは尊い行為であると告げました。この夢中による奇跡的な出来事は「二相対面」と呼ばれ、その後、法然は専修念仏を実践していきます。

平山郁夫の生家は浄土宗に帰依しており、特に父である峰一は信仰の篤い方でした。そうした環境で育ったこと、そして《仏教伝来》(1959年・佐久市立近代美術館蔵)を発表して以降、多くの仏教画を描いてきた画家は、1979年、中国の北京や広州などで展覧会が開催されることもあり、それに合わせて本作を描きました。平山は日本と中国が文化で結ばれることを願い、それに相応しい内容として、浄土宗における奇跡的な出来事をモチーフに選びました。そうしたこともあり、本作では『法然上人行状絵図』に描かれる二相対面を忠実に描いたものではなく、あくまでも上記の古画から着想を得て、現代的にアレンジされた作品です。こうした描き方は、画家が若かりし頃に描いた仏伝シリーズと同様であり、本作においても平山郁夫版としての「二相対面」を描いたものです。画家は言います。

「私は知恩院に六曲屏風仕立ての「法然偏依善導」をお納めさせていただいた。法然聖人は鎌倉時代の人で唐代の僧・善導大師に教えをうけたという。鎌倉時代の人と唐代の人では、時代があわないが、浄土宗では二相対面といって、重要な宗教的物語となっている。これは宗教的に感得したり、時を超えて教えを得ていることが、実際に出会ったことよりも深い意味をもつと考える・・・」

平山郁夫「平成洛中洛外図への想い」(『平山郁夫 平成洛中洛外図』講談社・2004年)より

※偏依についての読み方は、画家本人の読み方に従った。浄土宗としては「へんね」と呼ぶ。



平山郁夫シルクロード美術館

展覧会紹介 The Hirayama Ikuo Silk Road Museum Exhibition

平山郁夫 祈りのかたち 2021年3月6日(土)～6月22日(火) ※会期中無休

平山郁夫は、1968年から日本文化の源流を求め、仏教伝来の道でもあるシルクロードを旅し、平和を祈りながら描き続けた、戦後日本画壇を代表する画家です。長きにわたる画業の中で、シルクロードの取材は150回を超えるほどであり、これら旅の中で平山は、各国の遺跡や人々の営みなどを描いてきました。本展では、画家がそうしたシルクロードの旅の中で見聞した「宗教」や「信仰」をテーマに、それらの中で生み出された所産、特に神社仏閣やモスクをはじめ、仏像などを描いた作品を中心に展示します。あわせて本年は、平山郁夫の「13回忌」の年にあたることから、画家の生家が帰依した浄土宗に関わる大作《法然偏依善導》(1979年・知恩院蔵)も紹介します。



《瀬戸田曼荼羅》1985年 平山郁夫美術館蔵

Information

- ◆会 期 2020年3月6日(土)～6月22日(火) ※会期中無休
- ◆開館時間 午前10時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
- ◆観 覧 料 一般1200円/高・大学生800円/小・中学生無料
※障がい者手帳をお持ちの方無料、介護の方1名まで600円
※70歳以上の方、20名様以上の団体 各100円割引

- ◆主 催 公益財団法人平山郁夫シルクロード美術館
- ◆後 援 山梨県、山梨県教育委員会、北杜市、北杜市教育委員会、朝日新聞甲府総局、山梨日日新聞社・山梨放送、読売新聞甲府支局、信濃毎日新聞社、八ヶ岳ジャーナル、テレビ山梨、エフエム富士、エフエム八ヶ岳

※新型コロナウイルス感染拡大により、展覧会が延期・中止となる可能性があります。ご来館前にHPをご確認いただくか、お電話にてお問い合わせ下さい。

他会場で見られる平山郁夫シルクロード美術館コレクション(国内展)

- ◆東京藝術大学大学美術館(東京都)
「ミロク ―終わりの彼方 弥勒の世界―」展
2021年9月6日(月)～10月15日(金) 予定 内容:コレクション約15点
- ◆龍谷ミュージアム(京都府)
「アジアの女神たち」展
2021年9月18日(土)～11月23日(火・祝) 予定 内容:コレクション約30点
- ◆ハウステンボス・パレス美術館(長崎県)
「シルクロード」展(仮)
2021年9月18日(土)～2022年1月10日(月・祝) 予定
内容:絵画約15点、コレクション約70点
- ◆身延山久遠寺宝物館(山梨県)
「平山郁夫 一日蓮と仏教の旅」展
2021年9月17日(金)～10月20日(水) 予定 内容:絵画約5点
- ◆古代オリエント博物館
「女神繚乱 ―時空を超えた女神たちの系譜―」展
2021年10月2日(土)～12月5日(日) 予定 内容:コレクション約20点
- ◆平等院ミュージアム鳳翔館(京都府)
「平山郁夫 13回忌追悼展―浄土への祈り―」展(仮)
2021年10月上旬～12月上旬頃 予定 内容:絵画約5点

※新型コロナウイルス感染拡大により、展覧会が延期・中止となる可能性があります。ご来館前にHPをご確認いただくか、お電話にてお問い合わせ下さい。

蒐集日和 —25—

私が版画にたどりつく迄

平山郁夫シルクロード美術館名誉館長
平山美知子

平山美知子
制作風景
(1969年11月)



私は物ごころがついた頃から、九度山(父の和歌山県伊那郡の小さい町郷里)の麒麟児といわれた父が怖くて、何か言われる前に逃げていました。何事にもめげず立ち向かってゆく努力家の父には、何事もうまく出来ない私は本当に情けない存在だったのです。昭和17年、私が中学校を卒業した時、当時日本は太平洋戦争が始まっている時で、中学校を卒業して上級学校へゆかぬ女子は「徴用」といって軍需工場に働かなければならませんでした。その少し前から稽古事で習っていた日本画の先生が女子美術専門学校を卒業した方だったので、上級学校にゆくら女子美はどうかといわれ、急いで女子美術専門学校に入学願書をもらいに行ったのですが、女子美はもう願書を締め切り、来年入学試験を受けるつもりでした。来年迄何とかしなければならぬので、

家の近所の文化服装学院へ入ってもらい、一年洋服作りをきびしく教えられました。それまで何事も途中で投げ出してばかりいた私を何とか終わりまでやりとす事の一助となったと思います。

翌年、女子美に入ったのですが、東京はアメリカのB29の空襲におびえる日々になっていました。その頃、私は本屋でそれ迄見た事もない一冊の本を見つけました。柳宗悦の「茶と美」といふ本でした。それは色々の説明なしに直に本物を見ろといふ事や、「喜左衛門井戸」といふ茶の碗の写真などが出ている本でした。なにかよく分からない本ではいいと思いましたが、代金は自分では買えないので、母や兄の本など一括して買ふ中に入れてもらって持ち帰ったのです。その本は分からない事ばかりでしたが、何か物を見る時の心構えといった様

な事を知る様になったと思ひます。

昭和21年から女子も美校(現東京藝術大学)受験出来るといふ事が分かり、以前美校日本画を受験した人に提出画を見せてもらいました。それは写生と云ふより器械の製図の様にきびしいもので、私にはとても描けない様なものでした。しかし、人間は追いつめられると何か熱心にやり出さしく、私も絵にそんなに熱心だったわけでもないのに、油絵の熱心な人たちの、講師の先生を呼ぶ勉強会に入れてもらいました。必ず自分の絵を持ってゆかねばなりません。私は戦前受験の為に勉強した人の絵を手本にした絵を見せると、こんなのは絵ではないときびしく怒られ、みんなの前で大泣きしたものです。次の研究会の時、小雨がふる足元にもみじの小さな新芽が顔を出していました。あまりに美しいので私はスケッチブックにそれを写生しました。研究会の時、私は又怒られると思ひながらスケッチブックを開いたのですが、講師の先生に「絵はこれですよ。」と褒められました。

私には父にもう一つ忘れ得ぬ思い出があります。長兄望の妻である静子姉は私の事が心配らしく、友達と上野の国立博物館へゆく時、私も連れていってくれました。国博のよい物はみんな疎開していて、現代名作家の小さい絵が並んでいました。此の事は私には有難い事で、美校の先生方の絵を初めて見る事が出来ました。帰途玄関横のカatalog売場には何もなく「御物上代染織文」が一冊だけありました。それは高価で私が見るものではありません。初めて見る美しい本に私は欲しいと思ひました。帰宅後父にその本の事を言ふと「それはお前の勉強に役立つなら、お母さんに言っておくら、母さんからお金もらいなさい。」と言ってくれたのです。私は涙が止まらませんでした。やさしい父を感じたのは初めてでした。

昭和22年、美校(東京美術学校)を受験し合格しました。皆驚いたと思ひます。私たちのクラスの合格者は16名で16歳で合格した人も5名いました。兵隊に行っていた人も居るし、私は22才です。どんな人がいるか心配でした。教授は日本画の最高峰といわれる日本美術院の小林古徑先生、安田靉彦先生、前田青邨先生、村田泥牛先生、私たちの担任は予科から本科3年まで山本丘人先生(創画会)、4年の時は奥村土牛先生でした。美校の第一回生は横山大観、菱田春草、下村観山といった巨匠です。我々とは一寸違ふなといふ感じでどんなに勉強しなければならないかと心配でした。それよりも母は苦勞して入学金や交通費、昼食代を準備してくれましたが日本画の材料は高価で自分で何とかしなくてはなりません。アルバイトもいはいはありません。その頃2番目の信兄に教会の青年会の会報の表紙に何か描いてほしいと頼まれました。兄たちが、年賀状かなにかに使った葉書大の板があったのでそれに灯を彫り印刷したのを信兄はとても喜んでくれました。それまで人に褒められる事など無かった私は、それに力を得て、クリスマスカードをいろいろ作ったところ評判が良くなり売れて、日本画の材料費になったのです。初めて私は人に褒められる事をしたのです。それに力を得て、大きな板に鼠をくわえる猫を彫って版画協会展に出品し賞を得ました。サロン・ド・ブランタン展に裸婦絵を出品し、新人賞を得、賞金ももらえたのです。日本画科の授業は3年4年と殆ど出ませんでした。



猫(1950年)

4年の12月頃、美校の私たちのクラスの幹事の平山君が代々木の我が家に来たのです。「卒業には絵を出さないと卒業証明をくれないそうですよ。それに松山君の版画は駄目で、日本画を描きなさい」といっているよ。」と言うのです。卒業したら絵の先生になろうとしていたので、卒業証書がほしく、絵を描かなくてはなりません。何を描くかわかりません。その日のうちに下級生1人をつかまえて、モデルになってもらい絵を描く事にしました。卒業制作には1教室3人か4人が使ふ事になっていて、私の教室も決まっていた。なんと平山君、小泉淳作君、クリッパルシン君(インド人の留学生)と私の4人部屋です。何しろ2月迄に絵を描かなくてはならないので、決められた部屋で下級生を写生し始めました。そして、平山君は「松山君の家は代々木駅に近いので最近のコンパに貸してはい」といふので承知するよりありません。真面目なクリスチャン家庭の奥座敷に「ヨカチン」という美校の唄が鳴りひびいたのです。

戦後、松山の父は海軍省の海軍政務次官、大政翼賛会等の公職追放になっていましたが、代々木の松山家は人の出入りが多く、夕食はいつも20人位の大家族だったので、いつの間にか平山君も松山家に来る様になりました。父は熱心なクリスチャンでしたから贅沢でない母の漬物、カレー、コロッケ、魚の煮物などの夕食は皆に喜ばれ、いつも多くの人が集まっていたから、平山君が親しくなったのは当然だったと思ひます。

藝大日本画教習室は平山と2人で副手でしたから、部屋の掃除、茶の接待等があり、前田先生のお客様も多く、結構忙しい日々でした。けれども学校をさぼっている事が多かったのに副手になったのは平山君のおかげです。私も藝大の副手になるとは考えていなかったのに驚きました。私は外見の頑固さとは異なり、おせんち少女でしたから、前からも私の事を思ってくれる人が現れたら、私の一番大切なものをあげようと思っていましたから、私は絵をやめる事を決心したのです。男友達の事を心配する両親はきちんと2人の事をきめる様にいわれ、前田先生が仲人を引きうけて下さり、霊南坂教会で立派な結婚式をいたしました。それから、前田先生に副手をやる事を申し上げました。



平山郁夫 新婚写真

私の仕事は、平山が研究室で絵が描けなくなったら絵の描ける部屋がなくてはならないので、わたしも雙葉学園、成徳学園につとめ、廉・弥生の2児は広島のご両親に預かって頂き頑張り、4年半で小さな家を立てることが出来ました。

平山が消失した法隆寺金堂壁画再現の仕事に加えていただいたので、その壁画の源流を見たいと思ひ、夏の印度は暑いので少し北のアフガニスタンのパーミアンにゆく事にしました。当時海外旅行ははなから幻想です。ツアーはあまりありませんでしたから、アフガニスタンの様な国へゆくのは調査団として行った団員に聞かなくてはなりません。調査団に聞きにいった調査費用等を考えるのが私の仕事なのです。平山は藝大が忙しいので私が引き受けなければなりません。京大の樋口隆康先生を京都迄伺ひ、アフガニスタンまでどうしてゆくか、パーミアン迄の交通、食事の事迄くわしく教えていただかなければなりません。今回は、私まで飛行機に乗ってゆけるのですから熱が入ります。旅行に持ってゆく着替えとか薬、インスタント食品など大変あります。ありすぎて荷物の決まった重量に減らさねばならないとか、旅行社との交渉とか仕事はいくらでもあります。「何だ!何も出来ないじゃないか!」と平山に怒られると思ふと旅行も嫌になりますが、新しい風物、思ひがけない外国人のやさしさにふれたりするかもしれないと何事も堪忍と思ひます。平山は新しいもの、美しいものを写生します。私はどうしたらその思ひを現したらいのか迷います。本も書けないし、詩もかけない。でも私には版画があるのだと思ふと心が安まります。パーミアンの隣のアズダールの話を案内の青年が話してくれました。日本の大国主命の様な青年の武勇伝が心に浮かびます。忘れたくないそんな昔話をなんとか残しておきたいと思ひます。誰も教えてくれないその方法を、私はやっと探しだし絵に描いてみる。それは下手でも私のものです。版画はだれに教えてもらったものではありません。江戸時代の版画は、画家が自分のイメージを絵に描き、それを彫り師に渡します。彫り師は絵の方を板に張りつけ裏の絵を彫ってゆきます。出来上がると絵の紙をはがし、板を彫り師に渡します。彫り師は指定の絵の具を彫られた板に塗り、新しい紙を裏向きに彫られ、板の絵の具の上に紙をおき、馬連で上からおさえ刷ると出来上がりです。此の方法で紙を何枚も何枚も同じ方法を続けてゆけば良いのです。これが彫り師の仕事です。私はそれを1人で初めからやらねばならないのです。私は見当が1mmずれても失敗ですから、きちんと刷り上がったのが一枚しかないものもあります。聞いている方が腹が立つでしょう。私はこれが楽しいのです。私はこんな忙しい日々の中で夜も寝ないで続けてきたのです。



私の好きな場所(1950年)

2020年 化石発掘体験報告

平山郁夫シルクロード美術館 理事長
平山 廉

恒例の夏休みイベントとして「化石発掘体験」が平山郁夫シルクロード美術館の2階野外ステージで実施されました。7月11日に始まり、8月9日まで延べ14日間にわたって開催され、参加者総数は1438名に達しました。1日平均して103名のお客さんが参加したことになります。

イベントの内容はこれまでとほぼ同じで以下の通りです。

1:ビニールシート(最多で5枚)の上に土嚢袋の中に入った地層を拡げて参加者に化石や琥珀を探してもらう。



ビニールシートに拡げた9千万年前の地層から化石を探しているところです。

2:見つけた化石は、講師である私や、入れ替わりで体験講師を務めていただいた鶴野光さん(早稲田大学招聘講師)、及び保谷大地さん(東京学芸大学)が鑑定。貴重であると判定された化石は「プレミア化石」として寄贈していただき、発見者の記念写真と共に館内に展示する。「プレミア化石」は後の貴重な研究資料となる。

というものです。これを毎日10時30分、13時、15時スタートの3部に分けて発掘体験会を実施しました。見つけた「プレミア化石」は合計で253点にもなりましたが、これはこれまでで最多の記録となりました。ワニ、恐竜(竜脚類)、サメなどの歯、カメの甲羅、コプロライト(糞の化石)、虫入り琥珀、また「マユモドキ」と関係者から呼ばれている謎の化石などです。ほとんどの化石が日本では久慈市でしか見つからない貴重なものばかりです。参加者の皆さんは初め静かに集中して化石を探していますが、見つけた化石が「プレミア」と認定されると一気に場内のボルテージがヒートアップして、「プレミア化石」が続々と見つかるようになります。プレミア化石を見つけれなかったお客さんも琥珀や炭になった植物の化石などを見つけて満足していただいたようです。琥珀といえども、日本では久慈でしか見つからない9000万年前の樹脂の化石であり、花粉など肉眼では見え



体験終了後は参加者全員で記念撮影(7月11日)。

ない細かい化石や当時の空気の泡が中に閉じ込められた文字通りタイムカプセルなのです。

化石発掘体験が始まった2016年は参加者のほとんどが山梨県在住の方でしたが、2017年からはチラシなどの宣伝が行き届いてきたせいもあって長野県など山梨県外からの参加者も目立ってきました。今回はコロナ禍のために夏休みが短縮され、イベントのほとんどが中止となってしまったこともあり、いつも以上に子供たちが熱心に化石を探していたのが印象的でした。

2021年の夏も化石発掘体験の第6弾を予定しています。7月11日に始まり、8月3日まで14日間の開催を予定しています。この夏も大発見をめざして平山郁夫シルクロード美術館に集まりましょう!



これはサメの歯です。
保存が良く、歯根などが残っています。
サメの歯は合計32本が
見つかりました。

7月25日に見つかった大型恐竜
(竜脚類)の歯。
最高のプレミア化石の一つでした。



レストラン亜細花での慰労会。皆様お疲れさまでした
(8月9日)。

中国における当館所蔵品展について(2)

平山郁夫シルクロード美術館 館長 平山 東子

2018年8月に敦煌でスタートした中国巡回展「从地中海到中国-平山郁夫丝路之路美術館蔵文物展(地中海から中国へ)」は、前回のレポートの時点(2020年2月)では、コロナウィルスの影響によって、巡回先の^{しんせん}深圳博物館で一時封鎖になっていました。香港のすぐ隣にある深圳市(広東省)は中国のシリコンバレーとも呼ばれる経済特区ですが、我々が展示立ち会いのために滞在した2019年12月には、奇しくも、奈良時代の



吉備真備の石碑拓本
(部分 望野博物館所蔵)

の文人、吉備真備が中国留学中に書いたという石碑(洛陽出土の墓誌)が、深圳郊外の望野博物館で発見され、天平時代の日中友好の絆の証が見つかったと、ちょっとした騒ぎになっていました。開幕式の翌日に、その石碑を見に行つたのですが、我々が石碑を見学したこと

がなぜか地元紙に報じられ(展覧会の紹介ではなく…)、そのときはまだ、世の中がこのように一変してしまうことになるとは夢にも思っていませんでした。

深圳での展覧会は、約一ヶ月の臨時休館を経て、3月に再開されたのですが、5月末の閉幕のときは、我々当館サイドは、中国に入れず、立ち会いをすることができませんでした。今回の中国巡回展シリーズは、最初の取り決めで、展覧会の開始と終了時に、作品の点検と展示・撤去作業に立ち会うことになっていました。しかし、この時期から徐々に、渡航が禁止されたため、中国でも多くの海外貸出展に、所蔵館の立会人が入国できず、閉幕後も作品の撤去ができず、展示がそのままになったり、展覧会自体が延期や中止になる事態が相次いでいました。しかし、我々の巡回展は、すでに先の会場も決まっていたので、巡回を止めるわけにもいかず、話し合いの末、本展の企画をした会社の方に現地での立ち会いを委ね、我々はやむなく、「^{ウェイシン}微信」(ラインとはほぼ同機能の中国の無料通信アプリ)を介して、現場の状況をビデオ通話による中継や動画等で報告してもらうことになりました。いわば「リモート点検」です。

リモート点検に立ち会ったのは、中国側から企画の姚嵐さん(黄山美術社・北京鑑鐘文化伝播社)、美術輸送の北京迅捷珍品運輸公司の^{しんよう}荊陽さんと^{がくきょう}岳嬌さん、日本側の美術輸送の山九株式会社の清水さんと石田さん、そして当館からは前田さんと私でした。微信のネットワークは多いときには深圳、北京、合肥、東京、鎌倉をつなぎ、約3日間にわたり、展示会場での作業のようすや作品の状態が報告されました。もし今の通信技術の発展がなかったら、このような巡回を続けるこ

とはとても出来なかったと思います。

深圳の次の会場は、武漢にもほど近い、湖南省の長沙博物館でした(2020年6月13日～10月8日)。輸送トラックは通関の問題で、政情不安な香港を経由し、そこで5日間の足止めとなり、予定を大幅に遅れ、開幕の4日前にやっと長沙博物館に到着しました。ここでの展示作業も我々は入国できなかったのも、再び日中合作のり



長沙博物館への搬入風景

モート点検となりました。微信を介して、開梱、点検、展示作業の映像が延々と送信され、細かいやりとりが続きました。さらに、開幕式も、当然のことながら参加できませんでしたので、日本側は挨拶の動画を会場に送りました。北京に駐在の横井裕大



長沙博物館の開幕で

使(当時)は、この移動の難しい時期に、長沙の会場へ出向かれ、流暢な中国語で開幕挨拶をして下さいました。しかし、我々は、その模様をスマホの中

継で眺めるだけ、ということなんとも不思議なりリモート開幕式となりました。長江流域にある長沙市は、昨夏はコロナ禍に加え、豪雨による洪水被害まであり、結局、入館者は3ヶ月間で2万2000人、他会場に比べると非常に厳しい数字となりました。

長沙会場のあとは、少し間隔をあげ、昨年暮れから四川博物院での展示が始まりました(2020年12月29日～2021年3月20日)。丁度、昨年は四川省と山梨県の友好姉妹都市締結35周年にあたるため、四川における本展はこれを記念する展覧会として開催されました。

現在、展覧会は9会場目の寧波(浙江省)を巡回し、今後は広州省、江西省を回り、来年春にようやく帰国の予定です。さらにこの夏には、中国巡回展第2弾として、当館のシルクロードのガラスコレクション展を敦煌で開催する予定をしています。はたして、ガラス350点余を敦煌まで持っていき、展覧会を無事、開幕することができるのか…。その顚末は、次回レポートにてご報告したいと思います。



四川会場での長崎知事の挨拶が配信されました

◆第11回 シルクロード研究会の報告

春の到来を告げる梅の花が咲く、2月20日(土)、平山郁夫の画室・庫庵(於:鎌倉市二階堂)では、第11回シルクロード研究会を開催しました。今回は、平山郁夫の生誕90年を記念して、当館の中国書画コレクション(寄託)から「平山郁夫の足跡—中国における文化交流—」をテーマとし、専門家の方にお話していただきました。講師は、近代書画などを専門とする寺前公基先生(公益財団法人日本習字教育財団 観峰館・学芸員)で、当館の所蔵する中国書画コレクションから、そこに書かれた文字情報をもとに、平山郁夫の中国取材旅行の足跡や、当地で交流した人々などを辿りました。画家が描く作品以外にも、こうしたコレクションから取材の動向などを窺うことができ、参加された皆様をはじめ、職員一同も学びのあった会となりました。講演後は、茶室である寂静庵を利用して、寺前先生による作品解説を聞き、参加者一同、心行くまで楽しみました。

なお、今回のシルクロード研究会では、新型コロナ感染症対策(マスクの着用・検温・消毒・ソーシャルディスタンス、人数制限など)を講じた上で開催しました。



講演の様子(全体風景)



講演の様子(箱書きを見せながら)



作品鑑賞と解説
(茶室・寂静庵にて)

◆画室の活用状況について

平山郁夫画伯の画室は、鎌倉の緑豊かな閑静な住宅街の中にあります。

平山画伯の逝去後は、美術館の付帯施設として、事前申し込みに対応する形で、その都度、内部見学の機会を設けてきました。この画室は、画伯のライフワークとも言える大唐西域壁画の制作の場でもあり、天井の高さや壁一面に規則的に並べられた岩絵の具、精密に描きこまれたスケッチ、大下図などを通して、生前の画伯の制作の姿に思いをはせていただくことができます。

昨年度は、密接を避けた有意義な時間を希望する方々が多く、例年にも増して多くの方々に見学のお申し込みをいただくことができました。また、地元鎌倉に密着した

企業の文化教養を高める研修先に画室見学を組み入れて頂いたことは、地元とのつながりを深める上でも大変有意義な機会となりました。画室の庭は四季折々の植栽が大変美しく、早春の白梅、新緑の竹林、秋の紅葉や冬の椿など季節ごとに変化していきます。寂静庵と呼ばれる茶室の佇まいとともに、おいでいただいた方には、その風情をお楽しみいただくことができます。皆様にご案内できる機会がありましたら幸いに存じます。

見学を希望される方がおられましたら、是非下記までご相談ください。

鎌倉事務局 TEL:0467-25-0251 担当:喜安香奈子

2021年上期 開館カレンダー

4 April							5 May							6 June						
SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
				1	2	3							1			1	2	3	4	5
4	5	6	7	8	9	10	2	3	4	5	6	7	8	6	7	8	9	10	11	12
11	12	13	14	15	16	17	9	10	11	12	13	14	15	13	14	15	16	17	18	19
18	19	20	21	22	23	24	16	17	18	19	20	21	22	20	21	22	23	24	25	26
25	26	27	28	29	30		23/30	24/31	25	26	27	28	29	27	28	29	30			
7 July							8 August							9 September						
SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
				1	2	3	1	2	3	4	5	6	7				1	2	3	4
4	5	6	7	8	9	10	8	9	10	11	12	13	14	5	6	7	8	9	10	11
11	12	13	14	15	16	17	15	16	17	18	19	20	21	12	13	14	15	16	17	18
18	19	20	21	22	23	24	22	23	24	25	26	27	28	19	20	21	22	23	24	25
25	26	27	28	29	30	31	29	30	31					26	27	28	29	30		

3/6～6/22 「平山郁夫 祈りのかたち」展
 6/26～12/27 「平山郁夫 故郷の風景」展
 7/10～8/31 コーナー展示「荻野慎譜 3D骨格でよみがえる日本の古生物」展
 9/25～10/31 「早野恵美」展(仮)

※6/23～25 展示替えのため休館
 ※上記以外、4月～9月は休みなく開館
 ※冬季及び展示替え期間は休館

賛助会
だより

賛助会会員募集

賛助会は美術館の活動を支援するとともに、会員の皆様の交流をはかることを目的として発足いたしました。皆様から寄せられました会費は、展覧会の開催、講演会・講座の開催、国際交流、美術館の維持管理などに使用されます。賛助会員にはさまざまな特典(詳しくは美術館HPをご覧ください)のほか、交歓会等イベントも予定しております。皆様のご入会を心よりお待ちしております。

◆会 費 個人会員…… 10,000 円
 家族会員…… 15,000 円
 法人会員…… 100,000 円

◆受付期間 随時受け付け(毎年7月に更新。12～3月までにご入会の方は初年度の年会費は半額、4～6月ご入会の方は翌年6月末日まで有効)。

◆申込方法 申込用紙に必要事項をご記入のうえ美術館にご郵送いただき、所定の銀行口座に会費をお振り込みください。申込用紙ご希望の方は、美術館HPからダウンロードするか、美術館にご請求ください。

お知らせ

次回の展覧会案内

「平山郁夫 故郷の風景」展

2021年6月26日(土)～12月27日(月)※会期中無休



《天かける白い橋 瀬戸内しまなみ海道》2000年 平山郁夫美術館蔵

■ 賛助会を10年継続していただいた会員様のご紹介

感謝の気持ちを込めてご芳名を掲載させていただきます。

【個人会員】(五十音順) 磯部 孝司様 門田 よし江様 久保 ツユ子様
 齊藤 幸江様 高田 美知子様 福島 徳佑様 福島 由美子様



平山郁夫シルクロード美術館

平山郁夫シルクロード美術館ニュース 第26号 2021年3月発行

発行 公益財団法人平山郁夫シルクロード美術館

〒408-0031 山梨県北杜市長坂町小荒間2000-6

Tel 0551-32-0225

URL <http://www.silkroad-museum.jp>



ミックス
責任ある水産資源を
使用した紙
FSC® C023103